

西部方面区等での各種演習に参加 各種事態への対処能力を向上



第767号
令和2年12月18日

要望事項
必成
北方総監主

発行：北部方面総監部広報室



対着上陸戦闘準備(第2師団)

方面隊は、10月17日から11月12日までの間、西部方面区等において、西部方面隊が担任・実施する02鎮西演習、統合幕僚監部が計画するKS(キーンソード)21及び陸上総隊が担任・実施する陸上自衛隊システム通信訓練に参加した。

第2師団、第7師団、第5旅団、第1特科団、第1高射特科団、第3施設団、北部方面後方支援隊、第1電子隊及び北海道補給処がそれぞれの訓練・演習に参加し、各種計画等に基づく部隊等の行動を演練して、各種事態への対処能力の向上を図った。



敵の上陸に備え水際障害を構成(第3施設団)



対空戦闘指揮統制システムによる対空情報の共有(第1高射特科団)

第2師団、第1高射特科団、第3施設団、北部方面後方支援隊及び北海道補給処は、02鎮西演習に参加し、それぞれ島嶼侵攻対処を主体とした各種訓練を実施した。

第2師団は、霧島演習場において、島嶼守備部隊の作戦について訓練し、機動展開に引き続き部隊交代から対着上陸戦闘準備、対着上陸戦闘までの一連の行動について演練した。



部隊への弾薬交付(北海道補給処)



整備用部品のコンテナ化(北部方面後方支援隊)

第1高射特科団は、対空作戦について訓練し、部隊を作戦地域の広域に展開させ、対空作戦組織を構成し、航空自衛隊等と連携した強靱な対空作戦要領について演練した。

また、第3施設団は、徳之島において、海岸部での水際障害構成訓練を実施し、94式水際地雷敷設置装置を使用した地雷敷設置要領について演練した。

さらに、北部方面後方支援隊は、日出生台演習場等において、第一線部隊に対する補給業務について演練するとともに、北海道補給処は、九州補給処健康支処及び鳥栖支処において、方面兵站基地の機能を維持する要領について演練した。

各部隊は本訓練を通じて、方面管区外に緊急展開し、各種事態に対応する要領について練度向上を図った。

02 鎮西演習

島嶼侵攻対処能力の向上を図る

KS(キーンソード)21

空自と連携し、基地警備要領を検証



協同基地警備における命令下達(第7師団)

第7師団は、KS21に参加し、航空自衛隊千歳基地において、航空自衛隊と協同して各種計画に基づく協同基地警備訓練を行い、その実効性を検証するとともに、航空自衛隊との連携要領について、相互理解を深めた。



協同調整所での調整(第7師団)

陸上自衛隊システム通信訓練

南西に展開する電子戦部隊との連携



沿岸部での電子戦活動(第1電子隊)

第2師団、第5旅団及び第1電子隊は、九州及び南西諸島において、陸上自衛隊システム通信訓練に参加した。

また、第5旅団は、健康駐屯地、奄美大島等に於いて、機動展開間におけるシステム通信の確保及びそれに引き続き基地・野外システム通信

組織の構成要領について演練した。

本訓練を通じて、管区外に緊急展開した際のそれぞれの行動についてその練度向上を図った。



システム通信組織の構成(第5旅団)



内陸部での展開(第2師団)

第7師団戦車射撃競技会

それぞれの部門で優勝を目指し挑む

第7師団(師団長 中村陸将)は、10月24日から11月1日までの間、北海道大演習場において、師団戦車射撃競技会を実施し、第7師団隷下の各戦車連隊及び第7偵察隊が参加したほか、第2戦車連隊、第5戦車大隊及び第11戦車隊がまた、併せて日頃の整



10式戦車の射撃



90式戦車の射撃

オープン参加した。本競技会は、各戦車部隊等の戦車射撃能力の向上を図ることを目的として実施され、一連の状況下における小隊戦闘射撃を競技課題に、90式戦車の部及び10式戦車の部で競われた。



閉会式での部隊表彰

競技会結果

◇90式戦車の部

【部隊対抗】

優勝 第72戦車連隊
準優勝 第73戦車連隊

【中隊対抗】

優勝 第72戦車連隊第4中隊
準優勝 第72戦車連隊第5中隊

【小隊対抗】

優勝 第72戦車連隊第4中隊第1小隊
準優勝 第72戦車連隊第1中隊第1小隊
第3位 第72戦車連隊第5中隊第1小隊

◇10式戦車の部

【中隊対抗】

優勝 第71戦車連隊第3中隊
準優勝 第71戦車連隊第3中隊第2小隊

【小隊対抗】

優勝 第71戦車連隊第3中隊第2小隊
準優勝 第71戦車連隊第3中隊第1小隊

◇戦車直接支援部隊等の部

優勝 第7後方支援連隊第2整備大隊
第2戦車直接支援中隊

備能力を競う戦車直接支援部隊等の部についても実施した。各小隊は、状況開始の合図とともに、稜線上や躍進間に現出するの的に對して、迅速かつ正確に射撃し、特に、10式戦車の部では、新たに装備されたネットワーク機能の活用により、各戦車間で情報を共有し、より迅速で精度の高い射撃を実施する等、日頃の練成成果を遺憾なく発揮した。(各部門の順位は表

の通り。) また、同競技会に併せて、方面隊オピニオンリーダー研修を実施し、戦車部隊の射撃についてご理解いただき、方面隊の真の姿を地域の方々に普及いたいただく一助とした。



研修するオピニオンリーダー

第11旅団射撃競技会

戦闘員としての射撃練度を競う



至近距離射撃



優勝旗の授与

第11旅団(旅団長 酒井陸将補)は、11月17日から20日までの間、北海道大演習場において、旅団射撃競技会を実施した。旅団隷下各部隊が参加して実施された本競技会では、至近距離射撃と激動を伴う応用射撃の2つの競技課題の合計点で競い合い、それぞれの部隊・隊員は、持てる力を遺憾なく発揮した。

本競技会を通じて、戦闘員としての射撃練度の向上を図るとともに、部隊の団結強化及び隊員の士気高揚を図った。(各部門の順位は表の通り。)

競技会結果

◇旅団共通の部

優勝 第10即応機動連隊
第3中隊Eチーム

◇連隊の部

優勝 第10即応機動連隊

◇隊の部

【Aグループ】
優勝 第11戦車隊

【Bグループ】
優勝 第11施設隊

【Cグループ】
優勝 第11高射特科隊

ホーク・中SAM部隊総合訓練

積み重ねた訓練成果を発揮

第1高射特科団(団長 高木陸将補)は、11月30日から12月4日までの間、奥尻島等において、ホーク・中SAM部隊総合訓練を担任実施した。

また、北部方面通信群、第1電子隊、北部方面情報隊、第1ヘリコプター団、航空自衛隊北部航空方面隊等が協同・支援部隊として参加した。

本訓練には、第1高射特科団のほか、第7高射特科連隊、第2高射特科大隊、第11高射特科隊、第5高射特科中隊、東部方面隊の第2高射特科群及び第1高射特科大隊が訓練部隊として参加した。

各訓練部隊は、敵航空機の航跡及び攻撃の状況付与に對し、対空戦闘態勢を確立して、対空監視、協同対空戦闘を行う等、対空戦闘部隊制圧対処能力及び防空戦闘能力の向上を図った。

自衛隊札幌病院災害対処訓練

災害時に基幹となり得る医療機関としての能力向上



指揮所の開設



新型コロナウイルス感染拡大防止に留意した大量傷者の受け入れ

自衛隊札幌病院(病院長 大鹿陸将)は、11月21日、災害対処訓練を実施した。

本訓練は、札幌直下の大規模地震を想定した災害対処能力の向上を図ることを目的に、新型コロナウイルス感染症拡大を考慮した災害時における業務継続要領を主要演習項目として実施された。

当初、前段訓練として、ライフラインの途絶及び交通機関の不通が発生した状況下で、呼集により逐次登庁して、自衛隊札幌病院業務継続計画の向上及び業務継続計画の実効性の向上を図った。

次に、後段訓練として、大量の傷者が発生した状況下で、大量傷者対応チームの運用要領及び病院の各部門の連携要領について演習した。

本訓練を通じて、新型コロナウイルス感染症拡大時に、基幹となり得る医療機関としての能力向上を図るとともに、即応性の向上を図った。



航空機を捕捉する高出力イルミネータレーダ



中隊指揮装置による対空戦闘

計画的に北海道の道場化を推進

北部方面隊演習場秋季定期整備

人員約14,000名、
車両約4,000両が参加



装軌車道新設(矢白別演習場)



戦車射場拡張(然別演習場)



総合戦闘射場機能強化(北海道大演習場)



小銃戦闘射場改修(鬼志別演習場)



HTC通信基盤拡張(上富良野演習場)



溜枳整備(矢白別演習場)



側溝整備(北海道大演習場)

方面隊は、11月5日から14日までの間、道内各地の演習場において、北部方面隊演習場秋季定期整備を実施した。

本整備では、各部隊から人員約14,000名、車両約4,000両が参加し、作戦運用の实效性向上に資するため、訓練基盤の充実を重視した演習場整備を実施して、北海道の道場化を推進した。

方面總監(前田陸将)は、本整備に先立ち、「道場化の意義は、北部方面隊のみならず、全国の部隊が良好な北海道の訓練基盤を活用し、諸職種協同の連隊規模以上の訓練の実施を可能とするものであり、『充実整備』により計画的かつ確実に推進しているところである。特に、北部方面隊にとつては、陸自を牽引する方面隊として、持てる総合戦闘力を遺憾なく発揮し得る訓練基盤を作り上げる意味においても、この道場化の意義は大きい。各部隊は、誇りと情熱をもって整備を実施してもらいたい。」と訓示を述べた。

各部隊は、装軌車道新設、総合戦闘射場機能強化、戦車射場拡張、HTC通信基盤拡張、小銃戦闘射場改修等の演習場の機能を拡充する「充実整備」及び側溝整備や溜枳整備等の演習場の機能を維持する「維持整備」を実施し、北海道の道場化を推進した。

新隊員前期教育

充実した環境で段階的に教育

北部方面混成団(団長 岡本1佐)は、10月6日から隷下の第120教育大隊において、新隊員前期教育を実施している。

約3か月の教育期間の総仕上げとして、11月2日には北海道大演習場において、10km徒歩行進訓練を実施し、教育の終盤で実施

される25km徒歩行進訓練に向けて、行進隊形、敵を意識した行動等について演練した。

日々逞しくなり、自衛官らしくなってきた新隊員は、充実した生活環境で各種訓練に臨み、一歩一歩、一人前の自衛官に向けての階段を上っている。



10 Km 行進訓練



店内での生活

NTT東日本との協同訓練

災害時の連携要領等を確認

北部方面航空隊(隊長 廣瀬1佐)は、10月20日、丘珠駐屯地において、通信事業者(NTT東日本)との協同訓練を実施した。

道内の大規模災害を想定し、通信事業者が保有する通信器材を被災地等に空輸して、通信を確保することを目的に実施された本訓練では、多用途ヘリコプター(UH-1J)による被災地への通信器材・作業員等の空輸、被災地域の通信エリアの回復等を演練した。

本訓練を通じ、通信器材の積載マニュアル、積載物品、積載要領等を確認し、災害時における通信事業者との連携要領等について、その練度向上を図った。

本訓練を通じ、通信器材の積載マニュアル、積載物品、積載要領等を確認し、災害時における通信事業者との連携要領等について、その練度向上を図った。



通信器材の積載

自衛隊の魅力を動画で紹介!!



動画はこちらから

なぜ自衛隊に? お財布事情はどう? 基地生活はどう? 等、現役自衛官がぶっちゃけました!



あなたはどんな仕事がしたいですか? 今の仕事に満足していますか? 自衛隊ならソレ、できます!



入隊予定者向け冊子も作りました。ご覧になりたい方は、北部方面総監部人事部募集課までご連絡をお願いします。011-511-7116 (内線 2393)

令和2年度自衛官等採用案内



| 募集種目 | 受付期間 | 試験期日 | 合格発表 | 応募資格 | |
|-----------------------|--------------|---|--|--------------------------------|------------------|
| 自衛官候補生 | 随時受け付けております。 | 札幌 1月29、30日 2月19、20日 3月5日 | 受付時にお知らせします。 | 18歳以上 33歳未満の男女 | |
| | | 函館 1月17、18日 2月7、8、28日 3月1日 | | | |
| | | 旭川 1月17、18日 2月14、15、28日 3月1日 | | | |
| | | 帯広 2月13、14日 | | | |
| 第3回 一般曹候補生 (陸上要員: 男子) | 令和3年1月8日まで | 1次: 令和3年1月16日 2次: 令和3年2月10~16日 ※いずれか1日を指定 | 1次: 令和3年1月27日 最終: 令和3年2月26日 | 18歳以上 33歳未満の男子 | |
| 高等工科学校生徒 | 推薦 | 受付終了 | 令和3年1月11日 | 令和3年1月21日 | 15歳以上 (中学卒業見込含む) |
| | 一般 | 令和3年1月6日まで | 1次: 令和3年1月23、24日 2次: 令和3年2月4~7日 ※いずれか1日を指定 | 1次: 令和3年1月29日 最終: 令和3年2月18日 | 17歳未満の男子 |
| 貸費学生 | 令和3年1月15日まで | 令和3年1月30日 | 令和3年4月23日 | 大学理・工学部の3・4年次 大学院修士課程に在学 | |

◇ 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から試験日程が変更になる場合があります。



函館地方協力本部
0138(53)6241



帯広地方協力本部
0155(23)5882



旭川地方協力本部
0166(51)6060



札幌地方協力本部
011(631)5472

日本を守る「技術」のスペシャリストになる。



自衛隊貸費学生募集

奨学金54,000円が無利子でもらえます!

【貸費学生3つのメリット】

- ① 大学(大学院)卒業後は、陸海空自衛隊の幹部候補生として採用されます。
- ② 就職活動が不要、大学(大学院)で勉強に専念できます。
- ③ 大学から大学院への進学(進級)も可能です。

0120-063792

https://www.mod.go.jp/gsd/jeikanbosyu/



一生モノの3年間になる。



陸上自衛隊 高等工科学校生徒募集

0120-063792



自衛官募集 検索

将来陸上自衛隊において、高度化・システム化された装備品を操作・運用するとともに、国際社会においても自信を持って対応できる自衛官となる者を養成するために、中学校卒業生等を対象に採用する制度です。

